

千歳セントラルロータークラブ

ROTARY INTERNATIONAL District 2510

CHITOSE CENTRAL ROTARY CLUB



発行 千歳セントラルロータークラブ

会長 坂井 治 / 副会長 彦坂忠人 / 幹事 佐々木俊哉 / 会報編集責任者 武田伸也

〒066-8520 北海道千歳市本町 4 丁目 ホテル日航千歳内 TEL・FAX.0123-26-5788 オフィシャルホームページ <http://www.ccrcc.jp> E-mail.office@ccrc.jp

会長あいさつ

会長 坂井 治

皆さん、こんにちは。

また、今日も震災関係の話を少しします。

先週、先々週と続けて市内各所でチャリティーライブなどが行われています。スーパーで開かれたあるライブに行ってきました。準備から終了まで多分 5 時間程度の募金活動だったと思いますが、なんと 16 万円近くの募金が集まったそうです。

北海道から外国人観光客の姿が一斉に消えたことはご存じだと思います。日本の中でも安全な場所にもかかわらずです。

私たちの活動で日本の安全を訴えて外国人観光客が帰ってきてくれるような運動ができるといいのではないかと考えています。

2008 年 7 月に「洞爺湖 G8 サミット」が開催されたのに合わせて、千歳で「ジュニアサミット」が開かれました。もちろん皆さん重々ご承知のことと思いますが、その折に発足した市民実行委員会です。ただ歓迎して受け入れを淡々とこなすだけではもったいないと考え、特にヨーロッパから来る子供たちが空港に降り立った時に、空港前に行列するバスやタクシーがエンジンをかけたまま待機しているのを見て逆カルチャーショックを受けることがあってはいけなと考へ「アイドリング・ストップ運動」を提唱しました。

私がかつて訪れたことのある北欧各地では、20 年以上前から 5 分以上の駐停車の際必ずエンジンを止めるということが行われていました。

その後 2006 年 6 月に国際大会が開催されて訪れたデンマーク、スエーデン、フィンランドでも私たちが案内してくれたバスはどんなに暑くても全員が乗って動き出す時までエンジンをかけませんでした。

これは法律で決まっています。5 分以上アイドリングをすると罰則が科せられるという理由もあります。

当クラブでこの運動を始めてから 3 年目になります。

アイドリング・ストップには環境問題と省エネの両方の利点があります。

今年度後半はタクシー会社などへの働きかけを中心に行っ

例会出席状況 (2011 年 3 月 29 日)

会員数	34 名
会員出席者数	21 名
欠席者数 (内: 無断欠席)	13 (2) 名
出席率 (前回例会)	61.76 (61.76) %
ゲスト・ビジター出席者数	1 名
出席者数総計	22 名

ていく予定です。

さて、本日のゲストであります大古瀬さんは昭和 63 年から牛乳の紙パック回収運動を長年続けられています。また最近では皆さんよくご存じのペットボトルキャップ回収運動をされています。

当クラブの今後の活動に刺激とヒントをお与え頂けるものと思っています。

今日の例会は、エコプロジェクト実行委員会の担当です。

どうぞよろしくお願い致します。

幹事報告

幹事報告 佐々木 俊哉

- 米山梅吉記念館より館報第 17 号が届いています。
- 地区ガバナー事務所よりニュージーランド地震・東北関東大震災災害義援金のお願いは本日までとなっております。
- 前回例会後に緊急理事会を開催しました。4 月 5 日例会内容は、ゲストによる卓話に変更になりました。

東北関東大震災についてクラブで何かできることはないかと話し合いをしました。義援金についてはみなさんが会社など様々な場所でご協力いただいているかと思ひます。直ちに結論をだすのではなく、これから再建復興にかけて長期展望で必要な物を用意したり、そのための資金を集めるといった活動をしたほうがよいという結論になりました。さしあたって、例会時に募金箱を受付に設置しますので皆さんのポケットにある小銭を寄付していただきたいと思います。その金額によって将来的に例えば

学校に文房具を寄付するなどの活動をしたいと考えております。同時進行でこのような施策をした方が良いという意見も募集したいと思います。

ニコニコ BOX

ニコニコ箱委員会 委員長 羽芝 涼一

鈴木昭廣会員：北海道産業貢献賞受賞の祝賀会を開催しました。

高塚信和会員：交換留学生の北山夏帆さんが上智大学に合格したそうです。お祝いしたいと思います。

本日のプログラム

担当 エコプロジェクト実行委員会 委員長 須藤 丈
卓話「エコ活動・地域の現状やこれからの課題」

講師：愛キャップ市民回収運動実行委員会 委員長
大古瀬 千代 様

須藤委員長 ——



みなさん、こんにちは。

本日は40年の長きにわたり、環境や福祉をはじめとする地域の課題に取り組まれている大古瀬様をお呼びしました。大変お忙しい中、無理を言って来ていただきました。本日はエコ活動や地域の現状とこれからの課題についてお話いただきたいと思います。一度お会いした時に活動は非常に大切であり、この活動をさらに多くの人や子供たちに伝えていくことが大変重要であるとおっしゃっていました。私たち一人一人が隣人との付き合いを密にして、啓蒙していくことが大切であるとおっしゃっています。簡単ですが卓話ゲストの大古瀬様の略歴の一部をご紹介します。

大古瀬 千代様

京都府出身

昭和46年千歳に来られて以後平成5年6月より千歳市市議会議員として3期12年市民のために務められてい

ます。公職としまして、千歳市行政改革推進委員会副会長、千歳市廃棄物減量等推進審議会会長、市民活動としましては、千歳市市民憲章推進協議会会長、千歳市青少年育成市民会議相談役、千歳市紙パック回収事業推進連絡会会長、社団法人千歳市社会福祉協議会理事、千歳市女性団体協議会会長、さらに私たちがも参加させていただいている愛キャップ市民回収運動実行委員会委員長として活躍されています。 ——



ご紹介いただきました大古瀬でございます。

昭和46年、ちょうど札幌オリンピックの前年度なのですが、5月18日にこの北海道千歳市に足をのぞきました。その時の風景は樽前山にはまだ雪がいっぱいあったと思います。着いた時は山があることは分かりませんでした。今の第一ホテルに4~5日居りまして、ふと朝、支笏湖の方を見ますと、もりもとさんのパンの匂いが気になったのと同時に山がものすごく真っ白できれいで、あの風景というのはおそらく北海道に来て初めての風景だったと思います。今なお鮮明に覚えています。京都生まれで京都もいいですけども千歳が大好きで、住むには住みなれた北海道が一番大好きです。

いろいろご紹介いただきましたが、私はゴミが大好きなんです、とってばかにされました。その理念というのは環境問題の先走りというか、環境をどう守っていくかということです。昭和48~49年のオイルショックの頃、資源の少ない日本国というなかで物を大切に作る国民運動が全国で始まりました。その中で一番具体的に取り組むことは何だったのでしょうか。高度経済成長のあおりでみなさんの家には有り余る物があったと思います。それまで終戦後、貧乏な生活があったかもしれません。わたしがゴミの問題に取り組んだのは昭和25年に小学校に入学したころで、何もありませんでした。ランドセルらしきものはありましたが、段ボールでできていました。雨に2,3度あたらるとボロボロになりました。今のノートは帳面といいましたが書いては消しを繰り返す時代を過ごしました。ですから、私は物を大事にして次の子供や孫の時代にどうやって不自由な生活をさせないかを考えていたのだと

思います。こちらへきてから、そういった国民運動もあり、不用品交換会などを千歳で初めてやったのが私なんです。今もグリーンベルトでリサイクルフェスティバルが年に一度行われていますが、そういう動きを作りだしたことは私の生涯の中で大きな仕事だったと思っています。だんだん豊かになりすぎて、ある時皆さんのご家庭からでるゴミの組成調査を行いました。家庭から出るゴミの 4 分の 1 がリサイクルできるものであるとわかりました。それがきっかけで千歳のリサイクル活動がはじまりました。30 数年関わっていますが、たまたま道庁の環境部の方と知り合い、ゴミの中にもリサイクルできるものがあるのでどうしたものだろうかと話をしました。その際に牛乳パックの話になりました。以前は早朝に自転車で瓶の牛乳が配達されていました。昭和 56～57 年頃のことだと思いますが、大型店が進出したのと同時に消費者にも買いやすく、売り場も売りやすいようにということで紙パックの牛乳がでまわりました。紙パックの紙は最高の紙を使用しています。パルプそのものが飲み終わった後、ゴミになっていました。良い質のものですから、なんとかリサイクルできないかと倶知安に牛乳パック再生のためにつくられたのが道栄紙業という会社です。これは道の誘致企業です。製紙には水が必要ですから、水の豊富な千歳に来たかったそうです。道の誘致で倶知安もそういった企業が必要ということで、現在そちらに工場があります。良い方法で回収システムができて紙パックを利用できないかと目をつけたのが私です。リサイクルというのは同じ商品がたくさん集まらないとシステムにはなりません。なんとか、ゴミとして捨てているものを市民のみなさんの理解を得て回収をしてリサイクルすることによって、製品ができるのと同時にお金にもなります。このお金は個人に還元するのではなく、少子高齢化社会になったときに地域福祉の充実になるということで社会福祉協議会にて基金を積んでいます。昭和 63 年から活動を始めましたが、今年で 23 年間になります。618 万円ぐらいの金額があります。全市全体で紙パックを回収したのは全国でも千歳市が初めてです。全国のあちこちからこのシステムの話聞かせてほしいと言われました。千歳市長さんが市民協働とおっしゃっていますが、まさにこの活動が目に見えた市民協働のまちづくりの姿勢だと誇りに思っています。市民のみなさんがこのことに理解・協力をしていただいたことが金額的にも大きなものになったと思います。そういった運動があったからこそ、次に目についたのはペットボトルです。千歳市ではペットボトルは 4 種資源回収のなかで回収しています。これは国の容器包装リサイクル法という法律でやらなければいけないことです。家庭ごみの分別もしておりますが、事業系ゴミの分別がなかなかできていません。事業者も市民です。われわれ一人も市民です。そのような中で千歳市が環境、循環型社会を求めるならば、個人も事業者も機関もすべて一概にならないと話になりません。この周知徹底は環境センターにも絶えず行うように求めています。

ます。自分たちのためではなく、将来のためにご協力いただければと思います。

今、気がかりなのは環境保全公社がすすめている地域の集団資源回収のシステムが少しかわることです。その中で紙パックを回収していますが、その中で、私は愛キャップもできたら紙パックと同様に、集団資源回収の中に入れて一括現金化するという考えがありました。平成 18 年 12 月 1 日から愛キャップの回収運動を始めました。始まりは、帯広のリサイクル工場の見学をしたときに、キャップをなんとかしなければならぬと思っていたことです。キャップはその頃燃やせないゴミになっていました。ちょうど中国がオリンピックの前ということもあり、日本のゴミをみんな買ってくれました。そういったいいチャンスがあり、クリーン開発さんのご理解も得て紙パック回収運動につづいてやろうということになったのが、愛キャップ回収運動です。この回収運動については千歳セントラルロータリークラブさんでも幼稚園の子供たちと一緒に取り組んでくださっていることは、本当にありがたいことです。将来を担う子供さんたちが、少しでも心が豊かになるような社会であらねばなりません。その懸け橋をしてくださっているセントラルさんは非常に存在として嬉しく思います。アイドリング・ストップ運動についても坂井会長はおっしゃっていましたが、議会にでたときには何度も言ったことがあります。声はかかるけれども、なかなか実践がともなわない。その当時は環境に対しても関心が薄く、ガソリンも価格が安くてエンジンをきるのが面倒だという考えもありました。そのころからアイドリング・ストップ運動については私も強調していましたが、J8 のときには強力な坂井会長の意見におおいに賛成しました。そういったことでセントラルさんが先行を走っていることを私も心強く思っています。あちこち話が飛んでしまいましたが、愛キャップ運動については紙パック回収運動があったからこそできたということを認識していただきたいと思います。結果的に申し上げますと、紙パックは 23 年間で 1951 万枚回収しました。愛キャップも 370 個で 1Kg になりますが、今までに 850 万個という個数です。これは市民全体の協力の賜物です。愛キャップの回収運動を進めていて感じたこと、これが目的だったんだと思うことが一つ、二つあります。その一つは学校の生徒会・児童会が近年、大変一生懸命なのですが、最初に行った北栄小学校の荒川校長がこれは学校ではできない教育だ、と言ってくださったことです。ものの大切さとこのことがお金がいくらであろうと地域の福祉のために役立つ、要するにこころ運動であり、これは学校ではなかなかできないことだ、とおっしゃってくれました。また、つくし幼稚園に集められたものをいただきに訪れた時には、園長さんが「紙パックや愛キャップは何のためにやくだっているのですか？」と質問すると「リサイクルに役立つ」「気の毒な人のために役に立つ」と子供さんが答えていました。福祉の助け合いの運動、要するに人の役に立つものなんだということをお子さんに教えて

くれたのだと思います。もう一つ、千歳高校の定時制の方がもってきてくださっています。最近、異物が入ってリサイクルできないことがあります。リサイクルも商品なのです。いかに価値のあるものにするかは、きちんと整理して商品として大事に扱わなければなりません。そういったことをお話すると、本当にきれいにより分けたものもってきてくれます。私は本当に嬉しく思います。学校でも生徒さんが先生の引率で持ってきて下さるのですが、私はお礼と同時に、子供さんの未来にこうしたものが役に立つこと、子供だからできないのではなく、できることをみんながすることが喜びであるといっています。子供たちはみんな笑顔で帰っていきます。その姿をみると将来はいい社会になるだろう、と思います。ぜひ、それぞれの地域でそのような視点で企業・団体のみなさんにも市民運動に肩を並べていただきたいと思います。未来の子供たちのために今自分たちでできることをやって、必ずや将来のためになると信じて市民運動の継続と推進をしていかなければならないと思います。それが我々市民の役割だと思っています。世の中にはいろいろな人がいていいと思います。自分が生きている間に世の中に対してできることはやろうと思って続けております。「4 つのテスト」をみて私自身がもう一度この言葉をかみしめながら生きていきたいと思います。少しでも継続して自分たちができることをやっていただいで、それぞれの役割をまもっていただければありがたいと思います。今日はお招き頂きましてありがとうございました。

SCHEDULE

4 月 5 日	★通常夜間例会「卓話」[担当/佐々木幹事]
4 月 12 日	通常例会「ローター誌について」 [担当/プログラム・雑誌委員会(彦坂委員長)]
4 月 19 日	★親睦夜間例会「未定」[担当/親睦活動委員会(加藤正志委員長・手島副委員長)]
4 月 26 日	通常例会「次年度方針」[担当/羽生会長エレクト]
5 月 3 日	●休会 (みどりの日)
5 月 10 日	移動例会「ふれあい農園」[担当/ふれあい農園実行委員会]
5 月 17 日	★親睦夜間例会「未定」[担当/親睦活動委員会(加藤正志委員長・手島副委員長)]
5 月 24 日	移動例会「アイドリング・ストップ啓発活動」 [担当/エコプロジェクト実行委員会(須藤委員長)]
5 月 31 日	●休会 (月末)
6 月 7 日	★通常夜間例会「クラブ協議会」[担当/佐々木幹事]
6 月 14 日	通常例会「2010-2011 活動報告①」[担当/羽生会長エレクト、須藤副幹事、高塚直前会長、菊池会計]
6 月 21 日	通常例会「2010-2011 活動報告②」[担当/坂井会長、彦坂副会長、入口 20 周年実行委員長、佐々木幹事]
6 月 28 日	★親睦夜間例会「最終例会」[担当/佐々木幹事、親睦活動委員会(加藤正志委員長・手島副委員長)]